

水陸萬頃

第27号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。



頑張る若手を紹介します！

奥州市江刺で肉用牛繁殖を経営！ 小林美里さん



小林さんは、以前、自衛隊職員として勤務していましたが、令和3年に肉用牛繁殖農家に雇用就農しました。日々の業務で牛と触れ合う中で、牛を飼うことに魅力を感じ、次第に独立への思いを強めていきました。雇用主の方から牛舎を借り、令和6年に独立しました。資材高騰により苦勞しながらも、現在では繁殖牛20頭を飼養しています。

小林さんは、優れた飼養管理技術を持ち、令和6年度江刺畜産共進会では、管理・調教を担当した牛が名誉賞を受賞しています。令和7、8年も江刺地域代表として岩手県畜産共進会に出品しており、確かな技術力を発揮しています。

牛の飼養管理で特に大切にしているのは、「牛の顔をよく観察する」こと。日頃から一頭一頭の様子を注意深く観察し、体調の変化をいち早く察知できるよう心がけています。いつもと様子が違うと感じたときには、実際に熱が出ていたり、飼料摂取量が落ちたりしていることも多く、早期発見・早期対応につながっています。



また、家畜人工授精師の資格を所有しており、小林さん自ら繁殖牛への授精を実施しています。受胎率の向上を目指し、牛の状態を見極め、適切なタイミングで授精できるよう、日々、技術研鑽に励んでいます。

今後は、さらなる経営安定化を目指すとともに、将来的には増頭も視野に入れています。地域の畜産を支える、頼もしい若手農業者として、益々の活躍が期待されます。

小林さんが声をかけると皆集まってきます！

11～12月の作物ワンポイントアドバイス

大豆〔コンバイン収穫のポイント〕

★コンタミ防止

・収穫前にコンバインを十分清掃し、異品種混入を防止しましょう。

★茎水分50%以下で収穫

・分枝が手でポキッと折れる状態が収穫適期の目安です。

★子実水分18%以下を目安に

・高すぎるとつぶれ粒、低すぎると割れ豆が増えるため、適正水分で収穫しましょう。

★茎葉が乾いてから収穫

・晴天日は午前10時頃から日暮れ前が適期です。安全に配慮し、効率的な収穫を心がけましょう。

野菜〔来年に向けた病害虫・土づくり対策〕

★翌年の病害虫発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出して処分しましょう。病害の発生がひどい場合は土壌消毒や資材の消毒も検討しましょう。害虫の発生がひどい場合はハウス被覆を剥ぐか、妻面やハウスサイドを開放し、寒気にさらしましょう。

★土壌診断を行い、適正な施肥を実施しましょう。養分過剰による生理障害や生育不良が生じた場合は減肥を検討しましょう。ハウス栽培でECの高い場合はハウス被覆を剥ぎましょう。

果樹〔りんご晩生種の収穫等〕

★果実肥大期（満開後71～120日）の降水量が多かったため、「ふじ」では、つる割れの発生が懸念されます。収穫を必要以上に遅らせないよう気を付けましょう。

★11月中旬を過ぎると、最低気温が氷点下となる可能性が高くなります。果実が樹上凍結する恐れが出てくるので、適期収穫に努めましょう。

★廃棄する果実は、そのまま放置せず、破砕するなどし、鳥獣のエサ場とならないよう気を付けましょう。

花き〔ウイルス病の蔓延予防〕

★りんどう：残茎処理は、茎が茶色に枯れ上がり、乾いてからハサミを使いましょう。茎に水分がある場合はハサミを使わないか、株ごとにハサミを消毒してから行いましょう。

★小ぎく：生育後半に枯れ上がり症状が見られた品種は、ウイルス病害に罹患している可能性があります。伏せ込み時に生育の良い健全株を選定するようにしましょう。

畜産〔子牛の寒冷対策〕

★水は飲めていますか？

寒冷期は水が冷たく、牛が飲みたがらない場合があります。水を飲まないと、スターターの摂取量が減るうえ、食べたスターターも発酵しづらく、栄養吸収率が下がります。水槽やウォーターカップを清潔に保つとともに、凍結していないことを確認しましょう。スターターを給餌するときにはぬるま湯を与えることも効果的です。

★換気をしましょう

寒さ対策として牛舎を閉め切りがちですが、換気を怠ると、排せつ物等から出るアンモニアガスにより、子牛が呼吸器疾患にかかりやすくなります。定期的に換気を行いましょう。

岩手県農薬管理使用アドバイザーになりませんか？

詳しくはこちらのQRコードから





御意見番！指導士の声



農業農村指導士 及川欣一さん



今年で農業農村指導士の任期を終えることとなりました。これまで活動が続けてこられたのは、地域の仲間をはじめ、JAや関係機関など多くの皆様のご支援とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。指導士として担い手育成や地域農業の発展に携わる中で、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。

私は、水稻と肉用牛を組み合わせた循環型農業を営んでいます。当時、私が学校を卒業して就農することは当たり前のことでした。しかし今は、農家の子供であっても他産業に就職するケースがほとんどです。だからこそ私たち農業者は、若い世代が挑戦したいと思える農業経営を実践し、技術と地域農業を次世代へ継承していく責任があると考えます。



奥州市、金ヶ崎町内のクマ出没情報(7-9月)



奥州市・金ヶ崎町・岩手県が提供している市民向けの公式スマートフォンアプリのクマ目撃等※1件数について、地域別にデータ※2をまとめました。

奥州市・金ヶ崎町における令和8年7月～9月までのクマ目撃等について、最も多いのは金ヶ崎町、胆沢、江刺の順でした(図1参照)。

お出かけの際はクマ鈴を必ず持参してクマに自分の存在を知らせましょう。

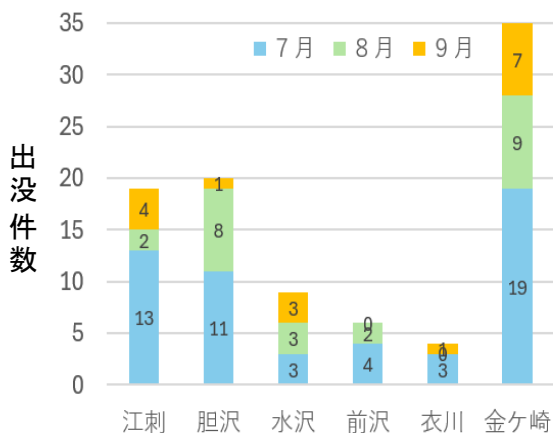


図1 地域別・月別クマ出没等件数

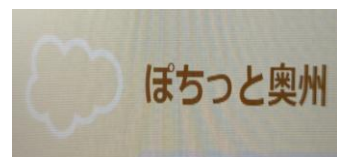
※1：出没内容は、以下の3種類です。

- ・目撃(成獣、幼獣)
- ・被害(肥料袋、牛の飼料等の食害)
- ・痕跡(爪痕、足跡、ふん)

出没件数の約9割が目撃の報告でした(令和8年4月～9月の報告)。

※2：公式スマートフォンアプリ3種

- ・「ぼちっと奥州」
 - ・「かねがさきInfo」
 - ・「BEARS(ベアーズ)」
- クマ出没情報共有





江刺りんごの繋がるバトンプロジェクト ～第3回江刺りんご農作業体験会を開催～



胆江地方農林業振興協議会では、後継者不在のりんご生産者の園地を新規就農希望者等へ継承する取組「江刺りんごの繋がるバトンプロジェクト」を今年度から実施しています。その一環として、新規就農希望者向けに「江刺りんご農作業体験会」を9月2日に開催し、県内外から6人の新規就農希望者等が参加しました。

第3回となる今回は、りんごの収穫作業をテーマに、講師のマルタカリんご農園の高橋氏から指導を受けながら、「きおう」の収穫作業を体験しました。また、体験後には、今後の園地マッチング研修から独立就農までの流れについて説明が行われました。

参加者からは、収穫作業に関する質問だけでなく、りんごの経営試算に関する質問や、就農に向けた資金計画や必要な設備に関する質問も出されるなど、就農への関心の高さがうかがわれました。



所長の小噺（こばなし）



日頃から農業者の皆様におかれましては、当普及センターの活動に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

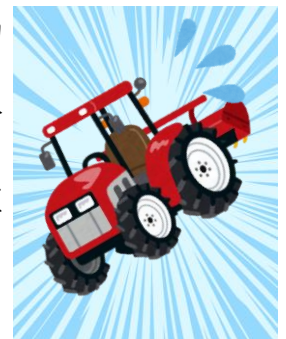
9月15日から11月15日は秋の農作業安全月間です。そこで、今回は皆さまの命と経営を守るため、事故防止の鍵となる「ヒヤリハット」について御紹介いたします。これは、幸いにもケガや事故には至らなかったものの、作業中に「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりした突発的な出来事やミスを指します。

皆さまの現場でも、次のような危険な御経験はないでしょうか。

- ①トラクターでの移動中、傾斜地や圃場の段差でバランスを崩しそうになった
- ②脚立や軽トラックの荷台で足元が滑り、転倒しかけた
- ③農機具のメンテナンス時、回転部に衣服が巻き込まれそうになった
- ④焦って作業をしていて、カッターなどの刃物で手を切りそうになった

こうした日常のサインを放置すると、いずれ重大な事故へとつながります。大切なのは、ヒヤリとした体験を隠さず、家族や従業員間で声に出して共有し、即座に対策を話し合うことです。

また、万が一の事故に備え、生活と経営の命綱となる労災保険への加入の備えも重要です。「これくらい大丈夫」という油断を排し、常に安全第一で作業していただきますようお願い申し上げます。



田野島所長